



# こすもスマイル

15号



発行／小林市立病院  
地域医療連携室

平成27年9月7日発行

## ～事務部長のあいさつ～



平成22年4月1日に当院の事務部長を拝命し、今年で6年目を迎えます。市立病院事務部での勤務は、通算で13年目（途中4ヶ月間だけ本庁での地域医療対策の業務に従事）の異例の長期になりました。

13年の間には、平成16年4月の新医師臨床研修制度を始め、最近では平成26年度の診療報酬改定で地域包括ケア病棟の新設など医療を取り巻く情勢への対応や当院においても新病院建設、電子カルテシステムの導入などハード・ソフトの両面において大きく変容して来ましたので、忙しい日々の連続というのが率直な感想です。

新病院は、平成21年7月に完成し早いもので、今年で6年が経過しました。この6年の間に作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士や社会福祉士等の新たな職種の新規採用により、手狭になったリハビリ室や会議室などの整備のため、平成26年度で増築工事を行ないました。また、職員待望の院内保育園（もみのき保育園）が完成し、9月現在5名の職員の子どもの保育を行なっていますが、現在、産休中の職員5人からも、保育園利用申込の相談を受ける盛況振りです。

病院のIT化については、私が赴任した平成15年当時は院内LANもなく、先生方や一部の職員がマイパソコンを病院に持ち込んで業務を行なっている状況でしたので、当時の市役所本庁と比べ病院のIT化の遅れに驚いたのを覚えています。その後、平成19年12月に初代の電子カルテシステムが稼働し、平成25年11月に2代目の電子カルテシステムに更新しました。そして、平成26年度にはPACS関係等各部門システムも更新し、平成27年度は院内のWi-Fi環境を整備いたしましたので、現在はある程度IT化は進んでいると思います。

市立病院は、全国や宮崎県の自治体病院協議会や国民健康保険診療施設協議会等に参加し、事務的な内容については多くの施設と情報交換等を行ないながら運営を行なっています。最近、まだまだ件数的には少ないですが、地域の医療機関から視察も受け入れ、お互いに情報交換を行なう機会も増えています。

本来は、事務部も当院の医療関係部署同様に地域の医療機関の皆さんと情報交換など連携が必要と痛感していますので、今後とも、皆様方の御支援、御指導のほどよろしくお願いいたします。

小林市立病院 事務部長 角井 孝志

## 理 念

「安心、安全で信頼される病院を目指します」

### 【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯（しんし）な姿勢で日々研鑽（けんさん）に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します



# 診療部紹介

今回は

**救急科**

です。



残暑厳しい中、みなさんいかがお過ごしでしょうか。

はや埼玉から西諸にきて2年が経ちました。当初は不安もありましたが、外科を含め、すべての診療科の先生に御協力いただき楽しい日々を過ごしております。

また大学をはじめ、地域の病院、診療所の方々には日ごろからご協力いただき誠にありがとうございます。

さて、2年働くうちに、西諸の救急の問題点も少し見えてきたような気がします。まず、日本の地域医療すべてで問題となる、医師不足があります。しかしながら、これはすぐに解決できることではありません。地域全体の活性化と魅力ある街づくり、大学や他県に行かれた医大生や勤務医との密接な連携が必要かと思われま

次に、夜間の重症患者の対応です。日中はDrヘリをはじめ搬送体制が整ってきておりますが、夜間はやはり手薄です。特に心疾患や多発外傷、重症患者は専門病院に搬送するのに40分～1時間はかかってしまいます。初期治療を行い高次医療機関に搬送したほうがよいのか、それとも直接、高次医療機関に搬送させたほうがよいのか、症例によっても悩ましいこともあります。消防との定期的な検討会を開くことにより、次に生かせるようにと日々研鑽してまいりたいと存じます。

またまた、救急の体制としては十分できるものではありませんが、引き続きご協力含め、ご指導をよろしく願いいたします。

救急科 川井田 望

## 今回のお花

小林華道連盟より

毎週すばらしいお花をいただいております。



# 看護部紹介

今回は **5 階 病 棟** です。

今回は、5階病棟を紹介します。当病棟は、消化器外科・腫瘍外科、救急科の病棟でハイケア病棟7床、感染病床4床を含む計50床で運営しています。年間250件の手術があり外科医4名、救急医1名、看護師27名、病棟クラーク2名、看護補助者8名で勤務しており、7:1入院基本料で対応しています。夜間は、3名の看護師で対応してします。その他、理学療法士、言語聴覚士、管理栄養士、メディカルソーシャルワーカーと連携しながら患者様が安心して治療を受けられるように支援しています。また、管理栄養士は各部署に配属されています。看護師平均年齢は、院内で最も若い35歳で、いつも若さを武器にパワフルに働いています。

ハイケア病床は、手術後、重症者の高い患者様が入室しており、人工呼吸器等の高度生命維持医療機器を使用しています。看護師は、高い知識と技術を必要とされるため日々自己啓発に努めています。手術目的で入院した患者様は手術前後の訓練や指導を行い、化学療法を受けられる患者様は副作用等の観察を行い、終末期の患者様は疼痛コントロール・苦痛に対する援助を行っています。

チーム医療として手術前、化学療法、緩和ケアのカンファレンスを毎週、様々な職種と行っています。

近年は、高齢化が進み核家族が多くご自宅に退院できる患者様が減少しています。ご自宅での生活が困難な患者様を西諸医療圏の病院で協力して頂いております。また、悪性腫瘍に関しては、地域医療連携室を通し他病院や他科と協力し手術、化学療法を組み合わせた治療、看護を提供しています。

今後も患者様が安心して治療に専念でき、笑顔で退院できるよう職員一丸となってサポートさせて頂きたいと考えています。患者様の為に皆様からのご意見ご指導ご協力をお願いいたします。

5階病棟師長 竹之下 直人



# コメディカル部門紹介

今回は **放 射 線 室** です。

当院の放射線室では、4名の診療放射線技師で、一般撮影装置、X線透視撮影装置、乳房X線撮影装置、骨密度測定装置、CT装置、MRI装置などによる検査を行っています。

夜間・休日も待機制により24時間救急に対応可能な体制をとっています。

平成26年度の撮影件数は、一般撮影 12,995 件、X線透視撮影 1,039 件、乳房X線撮影 169 件、骨密度測定 158 件、CT撮影 5,209 件、MRI撮影 863 件で合計 20,433 件でした。

近隣医療機関からの紹介率はCT検査が13%、MRI検査が15%で過去最高となりました。

当院の保有する診断機器を有効活用すべく、CT・MRI検査は地域連携室を通して委託検査を広く受け入れております。当日検査も可能な限り対応させていただきますのでご遠慮なく地域医療連携室へお問い合わせ下さい。

当院では遠隔読影システムを導入しており、放射線科専門医が読影し、レポートを作成しますので的確な診断が提供されます。

昨年度までは読影レポートが届くまでに2~4日ほど要しましたが、最近では放射線科医のご協力により検査当日、遅くとも二日以内には届くようになりました。

なお、MRI装置に関しましては診断精度の向上を目的に、より鮮明で高画質な画像が得られるよう近日中にシステムソフトのバージョンアップを予定しております。

これからも先生方に最適な画像を迅速にご提供し、信頼される放射線室を目指して努力して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

放射線科 室長 竹之下 雅司



# 第18回症例検討会

平成27年6月22日（月）に「第18回症例検討会」を当院2階大会議室にて開催しました。今回は、院外から1人の方に参加をして頂きました。また、大勢の方々にもお越し頂き、大変充実した会となりました。ありがとうございました。

## 第18回症例検討会

日時 平成27年6月22日（月）18時30分～ 参加人数 103名

座長 小林市立病院 院長 徳田 浩喜 先生

演題（発表者）『多職種連携により乳癌患者が治療に前向きになれた事例』

佐土瀬 さつき



『頭部領域におけるCT画像とMRI画像の比較』

斉藤 淳一



『在宅への支援～リハビリテーションの一事例～』

居宅介護支援センター やすらぎ

愛内 勝子



『小林市立病院におけるカウンセラーのはたらき』

～患者さんの不安への対処について～

臨床心理士 柳田 哲宏



『紹介患者の当院での治療報告』

消化器外科・腫瘍外科

吉満 工平



『成人の先天性膀胱尿管逆流症の1例』

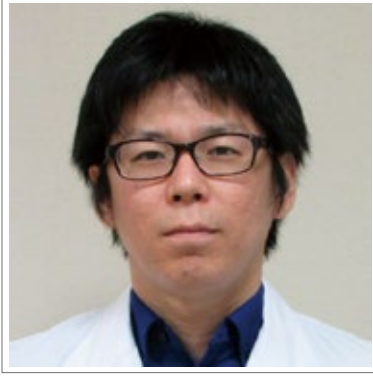
～将来的な逆流性腎症の可能性について～

川越 真理



# 新規医師紹介

ヤマシタ シュン  
山下 駿



## プロフィール

- 診療科 救急科
- 趣味・特技 テニス

小林市立病院救急科の山下 駿です。2015年8月1日から4ヶ月間、小林市立病院で勤務させて頂くことになりました。私は生まれも育ちも宮崎で、宮崎大学医学部医学科出身です。宮崎大学医学部附属病院で2年間研修医をした後、同院の救命救急センターに入局し、今年で医師になって4年目です。そんな私がこの度御縁があり、小林的地にやって参りました。

小林に来たのは初めてで、とてもどかな印象を持ちました。患者さんも穏やかで、何より長寿です。そんなどかな反面、事故や命に関わる疾病が多い印象があります。各病院のスタッフ・救急隊が骨身を削って救命に取り組んでいます。その輪の中に入り、小林市の一員として、小林市のために少しでも尽力したいと思っております。

何分若輩者で至らない点もあるかと思いますが、御指導御鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

## 地域医療連携室からのお知らせ

### 症例検討会のご案内

第19回症例検討会を下記の日程で開催する運びとなりました。

皆様には、何かとお忙しい時期ではあると思いますが、スケジュール調整のうえ、多数のご参加をお待ちしております。

日 時：平成27年10月26日（月） 午後6時30分から  
場 所：小林市立病院 2階大会議室



#### 連絡先

小林市立病院 地域医療連携室

TEL 0984-23-8225（直通）

FAX 0984-23-8226

### 編集後記

お盆を過ぎると朝夕と涼しくなったり、トンボの姿も見かけるようになったりと、秋が近づいているなあと思います。

先日祖母の家に行くと、栗の木に毬栗が生っていました。きれいな緑色をしていた毬栗が立派な栗になり、祖母からの「栗が出来たかい、取りこんね。」という言葉に心待ちにしている次第です。皆さんの身近にある「秋」を探してみたいかがでしょうか。楽しい発見があるかもしれませんね。

